

コミュニケーション

OMORIYAMA
ZOO
NEWS

2005・JAN

No.68

1



VS
ヒナイドリ

画：佐藤一男



秋田市大森山動物園
Akita Omoriyama Zoo

ほっといんふおめーしょん

マーコールとフサホロホロチョウが仲間入り！

11月12日、川崎市夢見ヶ崎動物公園から、当園では初めての飼育となる「マーコール」のオス2頭、メス1頭と「フサホロホロチョウ」の一つがいが新しい仲間としてやってきました。マーコールは家畜ヤギの原種の一つといわれる最も大型の野生ヤギで、オスにはコルクの栓抜き状にねじれて曲がった巨大な角があり、別名ネジツノヤギともいわれています。野生では山岳地帯に住んでいることから、マーコール舎内に木でできた「大きなやぐら」を設置しました。来園後数日間は慣れない場所に緊張していたためか、3頭が一箇所に集まり、やぐらにも登ろうとはしませんでした。やはり高い場所が好きなのか、今では頻繁に登って景色を楽しんでいます。



また、フサホロホロチョウはアフリカに生息するキジの仲間ですが、空を飛ぶのは稀で、速く走ることに得意な珍しい鳥です。



また、寂しがり屋さんで、野生では20羽以上もの群れで行動しているようですが、当園のキジ舎は周りに友達が多いので、彼らにとっては安心できる場所になるはず。

レッサーパンダと双子の赤ちゃん愛称決定＆順調に生育中！

7月13日生まれレッサーパンダ双子の赤ちゃんの愛称を広く募集したところ、おかげさまで園内応募をはじめ県内外から計777点の愛称をご応募いただきました。その中から動物園で10点を選考し、11月3日から11月7日までに来園された方々による最終決定投票を行った結果、秋田市の加藤礼奈さんの「風（ふう）」と、「陸（りく）」に決定いたしました。ご協力いただいた皆様に心より御礼申し上げます。

風と陸については、前67号で「展示場デビュー」の話題を取り上げましたが、その後も順調に成育中です。

当園で初めてとなるレッサーパンダの繁殖にあたっては、子ども



の成長はもちろんですが母親（ナナ）の健康状態を特に気をつけて飼育してきました。小さくてかわいらしい赤ちゃんを、お客様にお見せすることができて本当に嬉しく思います。

まもなく完成！リフォームして新しくなったツル展示舎

昨年11月からリフォーム工事に入っていたツル舎がまもなく完成します。既存のツル舎を改良し、新たに2棟の展示舎も建設します。今までは四角い箱の展示舎で、お客さんには一方向からしかツルをお見せできませんでしたが、これからいろいろな方向から観察できるようになります。また、スロープを設置してベビーカーや車いすでも動きやすくする予定です。



シロイワヤギのデミー静かに余生をおくっています

一時期は病気のため立ち上がることもできなくなりましたが、驚異の回復力で奇跡的に元気になったシロイワヤギのデミー。彼女は人間でたとえるならば75歳以上のおばあちゃん。視力が衰えたため、少しの物音にも



驚いてフェンスや小屋に突進するくこともしばしば。今は人があまり訪れない予備舎でゆっくりと暮らしています。シロイワヤギは寒さにめっぽう強いので、今年の冬も元気に過ごしてくれることでしょう。

ダイアナモンキー同居開始

おでこに三日月型の白い模様が特徴のダイアナモンキー。5月までウメおばあちゃん（27歳）1頭で飼育していましたが、6月から若いメス（1歳）が、そして11月からは待望のオス（9歳）がやってきました。けんかしないように同居を慎重に進め、今では3頭仲良く暮らしています。日本には20数頭しかいない貴重なサルであり、今後繁殖に努めたいと考えています。



酉年雑記

新しい時代を告げる 鶏に期待して

大森山動物園長

小松 守



こえ よし どり
声 良 鶏

酉年にニワトリが登場するのは、『酉』（音読み「ユウ」）の訓読みが「とり」であるため、動物神の『鶏』が当てられたようで、酉と鶏とは意味の上で関係はない。中国語学者の藤堂明保氏は『酉』の字はその著書「漢字文化の世界」の中で酒をしぼるツボの象形であり、収穫した穀物で新酒を作る時（季節）などを意味しているとしている。酒を入れる壺としての『酉』の字に惹かれるものもあるが、ここは動物園、動物としての『鶏』についてふれたい。

どんな家畜にも原種となる野生動物が存在するが、鶏は今から約4～5000年以上も前に東南アジアに分布する赤色野鶏（せきしよく や けい）が家畜化（ニワトリ化）されたものと言われている。最古の家畜といわれる羊は西アジアで1万年程前、既に人間に飼われていたが、東南アジアの鶏も負けないくらい古いことになる。人は鶏をおいしい肉を与えてくれる扱いやすい動物としてだけでなく、他の家畜にはない卵を産むことに大きな

魅力を感じたのであろう。赤色野鶏の卵は30 g 程度と小さかったようだが、改良された鶏は60 g 以上もの卵をたくさん産むようになった。

しかし、人は鶏にタンパク源だけでなく、鳴き声で時を告げてくれるという他の家畜にはない特徴も見逃さなかった。鶏の鳴き声にちなんだ話を少しご紹介したい。

中国に『鶏鳴の助』という言葉があるが、これは新妻が夫に対し鶏が鳴いたので起きなさいと励まし仕事に送り出すことから、君主が賢夫人の内助を得ることをいう意味で使われる。これに関連し、昔、中国では宮廷勤務は鶏が鳴く夜明け前に出勤したようだが、朝廷という言葉はそこから来たとのこと。鶏の鳴く暁前に起き仕事に入り、暗くなる日没には夜遊びをせず家路についたのであろう。自然でいかにも健康的な生活に思える。

鶏が時をつくることで有名な話は日本書紀の中にもある。天の岩戸にお入りになった天照大神（あまてらすおおかみ）（太陽神）を引き出すのに神々は常世の長鳴き鳥を集め鳴かせた。その声を聞いた天照大神は暁（朝）であることを知り、岩戸を開け、天地に再び太陽の光が行き渡ったと記されている。長鳴き鳥がどのように鳴いたかは定かではないが、大森山にいる長鳴き鳥の天然記念物・声良鶏（こえよしどり）は低いドスの利いた声で長く鳴くので、静まりかえった夜明けには遠くまで響くかもしれない。

鶏の鳴き声は、わが国では一般にコケコッコと表すが、韓国ではコッキョウ、英語ではコカドゥードゥルドゥー、フランス語ではココリ、イタリア語ではかわいらしくクックルクー、スペイン語ではキキリキーなど、鶏の品種が違うのか、聞く人の耳が違うのか民族によって異なっているのは実に面白い。

目覚まし時計が発達した今は鶏に時を告げてもらう必要はなくなったし、その声は現代社会にあっては騒音となり、鶏が町中で飼われることがほとんどなくなった。朝、機械に起こされるのではなく、鶏（鳥）の声とお日様の明るさで自然に目覚める生活こそ、人間らしいのかもしれない。

昨年は鳥インフルエンザ発生で明け、夏は猛暑、秋には台風の異常発生と大地震、さらには暮れ海外で起きた未曾有の大津波などなど、最後の最後まで「災」の多い年であった。「災」の年は早く去り（サル）、鶏さんたちに真に明るい夜明けになってもらえるように新しい時（年）を告げてもらいたいものである。

背景（題字） 須田 志美男

特集

冬対策（冬のどうぶつと動物園）



日本には約100の動物園がありますが、冬季閉園するのは、東北と北海道の限られた動物園だけです。秋田市大森山動物園もその中の一つです。閉園中、飼育係の人達は都会へ出稼ぎに行って、動物の餌代を稼いで来るとか、いろいろな噂がまことしやかにささやかれています。冬の生活の本当のところを、この際はっきりさせておきましょう。

— 獣医師 三浦匡哉 —

どうぶつ達の冬対策

まず、厳しい冬を越すために、動物達がどんな工夫をしているか見てみましょう。大森山動物園には北国出身など寒さのスペシャリスト達が結構います。

天然の毛皮やダウンジャケットを着る



▲毛に覆われたトナカイの鼻

トナカイ・アメリカビーバー・シロイワギ・ユキヒョウ・カリフォルニアアシカなど寒帯や高山帯、冷たい水の中に住む動物は夏に比べると冬の毛は密に生えています。きわめて密な下毛の上に、長く艶のある上毛が生え、その中に空気の間を作って、体から熱が出ていくのを防いでいます。また、トナカイでは鼻先や蹄の間まで毛に覆われていたり、ユキヒョウでは足を寒さから保護し、軟らかな雪の上でも潜りやすくするために、足の裏を毛のクッションで覆い、接地面積を大きくするなどの工夫をしています。



▲ユキヒョウの足の裏

水鳥にはとてもたくさんの羽が生えていて、まさにダウンジャケットを着ています。外側の羽の下で、皮膚に近いところには、タンポポの綿毛のような綿羽（ダウン）が、主に胸～腹部に多く生えています。この綿羽が空気をたっぷり含み、寒さを防ぎます。尾腺からは油成分が分泌され、水鳥はこれを嘴で全身の羽に塗りつけ、防水や保温効果を高めます。

お相撲さんもビックリ

アシカやクマなどでは、栄養のあるものをたくさん食べ、厚い皮下脂肪を蓄えることで寒さが体の中まで伝わらないようになっています。

体温のマジシャン

ラクダには、他の動物と違い、体温を35～41℃まで自在に変化できる特殊な能力があります。このため、寒い時は体温を下げ、暑い時は体温を上げることができるので、寒くても暑くても活動することができます。もちろん、ふかふかの毛も寒さを和らげています。

チームワークで乗り切るよ

サル山のニホンザルたちは、寒くなるとみんなで押しくらまんじゅうをしたり、少しでも冷たい風の来ないところにかたまりじっとしています。



▲寒さに耐えるニホンザル

冬眠と冬ごもり

爬虫類や両生類は、気温が下がると体温も下がり、活動量、代謝量も減って、動けなくなります。そこで、安全な場所に身を隠して、冬の間じっとしています。冬眠中は、体に蓄えた栄養を使って生きていて、酸素呼吸をしなくても大丈夫だといわれています。

リス、ヤマネ、コウモリなど、冬眠する哺乳動物は小型のものが多く、秋の頃から食物をたくさん食べたり、巣穴に餌を溜めこんだりして冬に備えます。外気温が低下してくると、安全な巣穴の中で、体温を自ら下げ始め、外気温近くまで体温が下がります。

例えばヤマネでは、心拍数（脈拍）も通常の1/10以下に下がり、呼吸数もごくわずかになります。日常の「眠り」の状態とは異なり、代謝活性が低く、目覚めることはありません。体が消費するエネルギーをなるべくおさえることで、冬を越す事ができます。

これに対して、クマやアナグマなどは体温の低下も2～3℃位で、ちょっとした刺激で自発的に目覚めます。クマなどの場合、ヤマネの『冬眠』と少し違って、『冬ごもり』と表現したりします。

クマやアナグマはこの『冬ごもり』中に出産をします。少し話がそれますが、クマの交尾期は6～7月です。交尾後直ぐに妊娠してしまうと、冬ごもりの準備期間と出産・育児という大仕事がかさなってしまい、子供はもちろん母親も冬を越せなくなってしまいます。そこで、『冬ごもり』中に出産できるタイミングで、受精卵が着床し妊娠する体の仕組みになりました。これを「着床遅延」といいます。

動物園の冬対策

お待たせしました。いよいよ飼育係の出番です。大森山動物園にはライオンやチンパンジーなど暑い地方に住む動物達がいます。また、冬眠をしない体の小さな動物もいます。これらの寒さに弱い動物を守るために飼育係は一生懸命頑張っています。どのように頑張っているか、その活躍を皆さんにご紹介します。

建物の工夫

これは飼育係の活躍によるものではありませんが、チンパンジー舎・猛獣舎・ゾウ・キリン舎などでは、どうぶつ達が寒くないようにボイラーを炊いて、温度管理をしています。中にはこれだけで満足できず、チンパンジーのように毛布を頭からかぶっているものもありますが…。

赤外線ランプやストーブで保温

アフリカタテガミヤマアラシやミニブタ、フラミンゴは赤外線ランプで、新世界（南米）サル舎やインコ舎、ヤマネコ舎などでは石油ストーブで、体が小さいコモンマーモセットやワタボウシパンシェなどは赤外線ランプ+石油ストーブで寒くないようにしています。ちなみに年間の暖房費は約400万円！

毎年恒例の大捕物

フライングケージ（以下ケージ）のある塩曳湯は真冬には全て凍ってしまいます。そこで、毎年閉園してから、ケージにいる鳥たちを冬を越すための建物『越冬舎』へ引っ越しさせる作業があります。

まず、端のフェンスに捕獲用のネットを仕掛け、鳥たちに気づかれないように水中に沈めておきます。それから、2隻のボートと今年から筏が加わり、ガンやペリカンを追い込みます。以前は飛び回れるとかなり時間がかかったのですが、ケージの天井が無くなってからは全ての鳥を飛ばないようにしたので、比較的捕獲が簡単になりました。それでも、一部のガンは水中に潜って逃げ回ります。最後は疲れ果てて捕まりますが。



▲越冬舎の中で春を待つ鳥たち

出初め式ではないけれど…

寒さにはある程度強いものの、強く冷たい風にあたると体力を消耗したり、体温を奪われてしまいます。また、風にあおられると体重の軽い鳥たちは思わぬ怪我につながります。そこで、猛禽舎やキジ舎などでは風からどうぶつを守るために、防風ネットを張り巡らせます。この作業はハシゴに乗って、かなり高いところまで登って作業しなければならず、ちょっとドキドキします。

劇的ビフォー〇〇〇ー？

動物園の飼育係は時に大工さんにもなります。中南米出身のショウジョウトキが住むトキ舎ではトキたちの快適？空間を急ごしらえて作ります。部屋を囲うことで冷たい風や雪からトキを守り、赤外線ライトを当てて、暖を取れるようにします。



▲トキ舎の冬囲い作業

その他

その他の工夫としては、足の長いキリンが運動場で転ばないように氷を割って地面を出したり、どうぶつ達がエネルギー不足にならないように、夏場よりも餌を増やしたり、餌の食べ具合をはじめ、より念入りにどうぶつの観察します。大雪が降った時は天井のネットが切れないように雪落としをします。

最後に

気温や天候の変化が動物達の命に関わる冬場は、飼育係にとって、ひとときも気を抜くことのできない季節です。真冬日も吹雪の日も、正月も関係なく、飼育係は動物達のために365日頑張っています。どうです？カッコいいでしょ。

夏を乗り越えて



▲父：豊 子ども：幸四郎

カナダヤマアラシ担当 吉 富 健

忘れもしない平成16年7月17日の朝、いつものようにカナダヤマアラシ舎に行くと、地面に黒色の物体がありました。「なんだ？あなたは、どこからおいでで？」一瞬頭の中でいろんな事を考えました。取り急ぎ展示場内に入ってみると…。

ナントそこにいたのはカナダヤマアラシの赤ちゃんではありませんか！その時の喜び様は、今でも鮮明に思い出せます。当園ではカナダヤマアラシの自然繁殖

成功例がなかったことから、私の目標の一つでもありました。

早速獣医師や先輩に相談し、環境整備に取り掛かりました。まず、母子を室内に移し、樹上性動物のカナダヤマアラシの赤ちゃんが室内の高所から落ちないように脱落防止の措置を取りました。さて、ここからが一番大変なんです。

私がまだ当動物園に配属になる前、母親のメープルは妊娠したまま当動物園にやって来ました。その後無事出産したのですが、赤ちゃんは7月31日「熱中症」によりわずか3ヶ月で死んでしまいました。その事例を聞いていた私は、「意地でも、夏を乗り越えさせてみせる！」とっていました。

そして、「暑さとの戦い」がはじまったのです。室内には、大型扇風機、展示場には、気化熱を利用しようと、時間を見ては水を撒き、さらには朝、昼、夕と1.5リットルの凍らせたペットボトルを毎回8本ずつ設置、予備として冷凍室には常に40本の凍ったペットボトルを。まるで氷屋さんでした…。しかも、よりによって今年の夏は、例年にない猛暑続き。何度も熱中症の事が頭をよぎりましたが、その努力が報われた？と感じられる喜ばしい出来事がありました。8月1日、赤ちゃんがペットボトルの上で涼んでいるのを初めて確認したのです。その後も数日間猛暑が続いたものの、快適に過ごしているようでした。「まずは、一安心。あと一ヶ月の辛抱。9月になれば涼しくなるだろう」と、自分で自分を励ましながら氷を運び続けていたことを思い出します。

今回の自然繁殖成功にあたっては、上野動物園カナダヤマアラシ担当の玉井さんから様々な点でお力添えをいただきました。また、獣医、代番者（休みの時に自分の担当動物を飼育する職員）そして諸先輩方からも日々心暖かいエールを送っていただきました。みなさんに感謝の気持ちで一杯です。

現在、子どもは皮膚の真菌症（カビの一種が感染）で入院中ですが、食欲もあり元気に成長を続けています。また、11月26日には母親の周辺に硬いトゲが5・6本落ちていました。これは交尾した可能性があることを意味しているのか、今後も注意深く飼育観察していきたいと思います。

カメの手術

飼育展示担当（獣医師） 高橋 広志



今年の秋ごろから、1匹のインドホシガメがほとんどエサを食べなくなって、どんどんヤセ細ってきました。レントゲンを撮ってみると大きな卵が6個も体内にあります。この卵が食欲不振の原因かははっきりしませんが、衰弱した体に産卵する力が残っていないのは明らかです。イチかバチか、「卵を摘出してみよう!」と思いました。

でも「はて? どうやって取り出したらいいんだろう?」カメのお腹には固い甲らがあります。「こんなの大学では習わなかったな。」教えてくれる人も居ないし、いろんな本等を参考にしながら手術しました。まず全身麻酔を掛けて、歯医者さんの歯を削る機械で甲らに四角い穴を開けます。その部分の肉や膜をメスで切って、卵の入った袋を引っ張り出しました。あとは袋から卵を出して、切ったところを縫えばおしまいです。固い甲らは、金属製のワイヤーで縫い合わせました。動物園では、いろんな動物がいろんな病気に掛かるので、毎日試行錯誤の連続です。

飼育日誌より

10/12 ☀ トナカイ、♂1頭搬入。
ビーバー、2003生トキオ搬出。
カピバラ、2001生タクマ搬出。
10/19 ☀ レッサーパンダ、仔、初めて外の展示場にだす。
チンパンジー、ボンタ、広報課の取材でラグビー
ボールで遊ばせたが、ボールの中のゴムを食べて
しまった。催吐剤を与えたが吐かなかった。
10/21 ☀ チンパンジー、ボンタ、便に大きなゴムが
混ざっていた。
10/23 ☀ マントヒヒ、1仔出産。
10/26 ☀ コモンマーモセット、初育児行動ペア、仔親
と同じえさを口にするようになった(39日令)。
ハチクマ、東京大学のハチクマ生態調査協力
のため、採血と羽などの採材を行う。
10/27 ☀ インターンシップで秋田商業高校生、飼育体験。
10/28 ☀ レッサーパンダ、午後より、健健、花♀、
ナナ♀、仔2頭の計5頭を同居させる。特に
問題なし。
10/29 ☀ レッサーパンダ、本日も同居させたが、花♀が尾
短の仔に飛びかかったため、花を室内展示とする。
11/3 ☀ クイズ・おねがいヒントマン実施。
11/7 ☀ マントヒヒ、仔、♂に咬まれ死亡する。
11/8 ☀ カナダカマアラシ、仔、皮膚真菌(カビ)症
が悪化したため入院棟で入院。
11/9 ☀ サル山、野生ザル出沒。
11/11 ☀ ポニー、マーブル♀、右前肢の蹄が割れたた
め緊急削蹄。
11/12 ☀ マーコール、ホロホロチョウ川崎市夢見ヶ崎
動物公園から午前中搬入。

11/16 ☀ ホシガメ、全頭を病院にて、温水浴、各種測
定、レントゲン検査、検便等を行う。No.4に
卵6個が確認された。
11/17 ☀ ツル舎、リフォーム事業がはじまるため、ツル
舎のツル5種をシュバシコウ舎、入院棟へ移動。
11/18 ☀ ウシ、オリビア、発情?(粘膜性出血発見)
11/20 ☀ ホシガメ、No.4、状態がよくないため病院へ入院。
11/22 ☀ レッサーパンダ、5頭を同居させる。花♀が
陸に噛みついたとのお客様からの連絡。中
止にする。
11/23 ☀ さよなら感謝祭 過去最高の6,000人入園。
11/26 ☀ ホシガメ、No.9♀死亡。
シュバシコウ、仔、左翼から出血。羽軸が折れていた。
11/28 ☀ コウノトリ、♂、フェンスに衝突。上嘴骨折、下嘴曲がる。
11/30 ☀ フライングケージ、コクチョウ、ネットにひつ
かかっていた。はずして一時病院収容。
ニホンザル、野生ザルがサル山内に落ち、群れに
襲われる。保護し、病院にて治療。サル山内寝室
に収容。
12/3 ☀ ハワイガン、埼玉こども動物自然公園より6羽搬入。
エリマキキツネザル、1頭川崎市夢見ヶ崎動
物公園へ搬出。
コモンマーモセット、♂1頭♀2頭も同園へ
搬出。他仔2頭動物業者へ搬出。
12/5 ☀ ビーバー、02'生まれの仔、闘争による大けがで元で溺死。
12/6 ☀ サル山、野生ザル、自然保護課経由で奥山に放獣。
12/10 ☀ タンチョウ、同室にヤマドリを同居させる。
12/13 ☀ フンボルトペンギン、1羽目、孵化確認(知
多22・左赤右白2ペア)。

飼育動物数

	種 類	点 数
哺乳類	59	295
鳥 類	57	214
爬虫類	10	33
両性類	0	0
魚 類	4	31
合 計	130	573

(平成16年12月末現在)

編 集 後 記

新年あけましておめでとうございます。久しぶりに大雪の1月となりましたね。私は、今更ながら『やっぱり秋田は雪国なんだ』と再確認! ? と言うのも、コミュニケーションのバックナンバー1992年1月号に「またしても雪の全くない1月」という記載がありました。今思うとそれ以降も雪の少ない1月が多く、いつの間にか特記するほど珍しい事ではなくなり、更には「地球温暖化」という一言で自己解決していた気がします。

そんな「秋田らしい冬」となった今年から、昨年まで1日のみの開催だった「冬の特別開園」を1月・2月それぞれ3日ずつの計6日間に拡大。1月開催の3日間は、時折吹雪となる厳しい寒さとなったものの、計3,089人のお客様にご来園いただき、素晴らしい形で2005年のスタートを切ることができました。

— 柴田 典弘 —

かたばた通信



優秀賞 「にらめっこ」

東京都墨田区 高山 景司さん

作品タイトル「にらめっこ」にピッタリ。
寂しそうな目の表情が印象的です。このクマさん
は何を考えているのかな。



園長賞 「2人で!? ウフフ」

秋田県秋田市 齊藤 玲子さん

人間の笑いとチンパンジーの笑ったような表情
を対比させた絶妙の瞬間を捉えた作品。
登場しているチンパンジーの雌ジェーンさんはも
しかしたら撮影者の心を見抜いてくれて協力した
のかもしれません。ジェーンおばさんはそんな賢
いチンパン人です。



新企画 「おねがいヒントマン!」開催

昨年の11月3日、新企画のウォーククイズ大会「おねがいヒントマン」
が開催されました。このクイズ大会最大の特徴は、ヒントマンに変身し
た職員が規定の時間に登場し、問題の解説やヒントを出してくれる「ヒ
ントタイム」。ユニークな振り付けと共にヒントマンが登場すると、歓
声をを上げながら周りに駆け寄る子どもの姿も見られ、まるでヒーロ
ーショー思わせる人気ぶりでした。

大好評につき今年は4月17日に第2回目を、さらにその後も6月、
10月と開催することが決まりました。お楽しみに！

感謝・感激! 大盛況にてシーズン終了!

平成16年の最終開園日となった11月23日、お客様と動物たちに感
謝の気持ちを込め「2004さよなら感謝祭」を開催しました。今年一年間
に残念ながら亡くなった動物たちの慰霊祭が行われた他、オリジナ
ルグッズが当たるお楽しみ大抽選会、サンタクロースや干支(クジャ
ク、フクロウ)との撮影会等で楽しんでいただきました。おかげ様を
もちまして、当日は最終開園日過去最多となる6,019人ものお客様
にご入園いただき、大盛況にてシーズンを終えることができました。



お楽しみ大抽選会

お知らせ

恒例「冬の特別開園」開催

平成17年2月11日(金)～13日(日)の3日間

開園時間/午前11時～午後2時(入園は午後1時半まで)

入園無料